



菅平生き物通信

発行者／筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 〒386-2204 長野県上田市菅平高原1278-294
☎0268-74-2002 FAX 0268-74-2016

https://www.msc.tsukuba.ac.jp/ ✉ikimono_srs@un.tsukuba.ac.jp 第92号 2022年(令和4年)9月11日(日)発行 ©菅平高原実験所

美しい侵略者 オオキンケイギクの防除 ～長野県の貴重な草花と自然を守る～

筑波大学山岳科学センター
技術補佐員 石渡 勉



図1：オオキンケイギクの花



図2：横から見た株



図3：若い株

5月から7月にかけて、道路わきや空き地などで咲くオレンジ色の花の群落を多くの方が一度は目にされたものと思います。花のない秋でも、これから述べる特徴ある葉の形状を参考にすれば容易に見つけることができます。

これはオオキンケイギクという花で、もとは輸入園芸品種でしたが、余りにも繁殖力が強く、日本の貴重な在来種を駆逐して生態系を壊す恐れのあることが後にわかりました。そのためオオキンケイギクはセアカゴケグモなどと同様に、外来生物法の「特定外来生物」に指定され、栽培、運搬、譲渡、野外に放つこと等が禁止され、防除をおこなうこととされました。違反すると、個人の場合、3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金、法人の場合には1億円以下の罰金となっています。かなりの重罪ですね。

オオキンケイギクの主な特徴

- ①花は直径が5～7cm。花びら（舌状花）はオレンジ色で、その先はギザギザと割れていて、中心には6mm以上の長さの筒状花がある（図1）。
- ②草丈は30～70cm。多くは株立ちになる（図2）。
- ③葉はへら状か細長い楕円状で、葉の縁はなめらかだが表面には荒い毛が生えている（図3）。
- ④多年草であり、根と葉を残して越冬する。
- ⑤種子は扁平で2枚の翼があり、筒状花から多数が飛び散る。
- ⑥種子には休眠性があるため、落下後に何年たつて発芽するかは未定。株元には多数の種子が眠っているため、当面は毎年の継続的な観察と防除作業が必要となる。

種子は、翼があるため風で遠くに飛ばされ、道路に沿って

イベント情報

秋の自然観察会「秋の草原と森の観察、そして滝へ。」

季節の草花や樹林を観察しながら、通常非公開の大明神の滝を目指します。菅平ナチュラリストの会（ボランティアガイド）がご案内します。

- 日時 10月8日（土）9時30分～12時（9時受付開始、所用時間約2時間）
- 定員 20名（事前申込）
- 参加費 50円（保険代）
- 会場 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所（上田市菅平高原1278-294）
- 服装 長袖、長ズボン、歩きやすい靴、帽子、マスク着用
- 持ち物 雨具、虫よけ、飲み物（水分補給用）、防寒着
- ・事前に悪天候が予想される場合や、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては中止となります（中止の場合は前日連絡）。
- ・参加される方は、当日10日前より検温等の健康観察をお願いします。
- 申し込み 9月26日（月）～30日（金）に、①氏名、②住所、③電話番号、④メールアドレスを明記のうえ、メールでお申し込みください。

まちなかキャンパスうえだ 市民向け講座

ご参加の可否について、数日以内にご返信します。また、数名のグループでお申し込みの場合は、全員の氏名とご住所をご記載ください。

- 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所
☎0268-74-2002（平日9～17時）
✉ikimono_srs@un.tsukuba.ac.jp

キノコの世界

キノコについて理解を深める講座です。分類、生態、食毒について解説します。
※オンライン開催のみとなる場合があります。

- 日時 10月21日（金）18時～20時
- 講師 出川洋介（筑波大学 准教授）、山浦由郎氏（長野女子短期大学 客員教授）
- 対象 中学生以上
- 開催方式 まちなかキャンパスうえだでの対面（定員あり）とオンライン（Zoom）
- 申し込み 9月22日（木）以降、住所、氏名、電話番号を、電話、FAX、またはメールでまちなかキャンパスうえだへ。
- 申し込み締切 10月14日（金）
- まちなかキャンパスうえだ
☎0268-75-0065（FAX兼用）
（月～金曜日 12時～17時）
✉info_mcu@email.plata.or.jp

～て雨水に流され、泥と共に靴や車に付着して遠くまで運ばれます。これが近所にひろがり道路に沿って増えていく理由です。早期の発見と種子が落ちる前の防除が大切になります。

春から夏にかけての野山では多種多様な黄色い花を目にしますが、防除に際してもし判別に困ったら、①から③のような特徴ある葉の形状と全体的なサイズ感を参考にしてください。

防除の方法

- 時間差で成長し次々と開花するので、防除作業のタイミングや回数が重要となります。
- ①根は浅いので、1株分の茎をまとめて握り真上に引き抜き、種子を落とさないようにしてビニール袋に入れ、燃えるごみとして焼却処分する。
 - ②硬い土やコンクリートの細い隙間のように引き抜きが困難なとき、あるいは人が踏み込むには危険な場所などでは、葉に吸収させて根まで枯らす除草剤を株にスポット噴霧して防除する方法も有効。
 - ③地上部を刈払う方法もあるが、根が残っているのですぐに再生する。年に複数回の刈払い作業を毎年継続的におこなえる場合に限られる。

様々な連携協力あるいは個人ボランティアによる献身的な防除作業が日本の各県各地で行われています。貴重植物が多い長野県でも、行政、自治会、各種団体、学生さんたち他の皆様の年間活動計画の中にオオキンケイギク防除作業を組み入れていただくと助かります。1輪の花も見逃さない息の長い活動が望まれます。

冬虫夏草の世界 く虫から生える不思議なキノコの話く

筑波大学生物学学位プログラム
博士前期課程（1年）

須川 元



図 4：ミチノクコガネツブタケ *Ophiocordyceps geniculata* f. 怪しげな棒状のキノコの下には虫が埋まっているかもしれません。



図 5：サンチュウムシタケモドキ *Shimizuomyces paradoxus* サルトリイバラやヤマカシユウなどの植物の種子から生える冬虫夏草。

夏、谷筋の湿った森の中で地面を注意深く観察していると、苔や落ち葉の隙間からひょろりとした棒状のキノコが顔を出していることがあります。そのようなものを見つけたら、ぜひ慎重に落ち葉をかき分け、根本を探ってみてください。もしかすると、それは「冬虫夏草」かもしれません。

冬虫夏草は簡単に言ってしまうと「虫から生えるキノコ」です。しかし、彼らは単に虫の死骸を分解しているわけではありません。生きた昆虫に寄生してその虫を殺し、亡骸を菌核化してそこからキノコを生やしています。昆虫にしてみれば恐ろしい病原体ですね。

さて、皆さんは日本が密かに「冬虫夏草の宝庫」と呼ばれていることをご存じでしょうか？

実は日本の冬虫夏草類の多様性の高さは世界でもトップレベルで、400種ほどの冬虫夏草が国内から報告されています。多くの種は昆虫に寄生しますが、クモやヤスデなど昆虫以外の節足動物に寄生する冬虫夏草も知られており、中には植物や菌類に寄生する種類まで存在します。幸い人から生える冬虫夏草は見つかっていませんが、*Purpureocillium lilacinum*（ツチカメムシタケ）という種類は人間の日和見感染症の病原菌としても知られており、我々も油断はできないかもしれません。

冬虫夏草はその気になれば近所の里山や都市部の公園などでも見つけることのできる非常に身近な存在です。にもかかわらず、世間一般において冬虫夏草という生き物の認知度はそれほど

ど高くないと感じます。知ってはいるけれど実物を見たことは無い、という人も多いのではないのでしょうか。一研究者、あるいは一マニアとして、この現状は少々もったいないと思っています。

冬虫夏草は確かに小さく目立たない存在ですが、その怪しげな造形とユニークな生態は人の心を惹きつける不思議な魅力を感じています。ぜひ皆さんも気が向いたら森の中でこの不思議なキノコを探してみてください。いかがでしょうか。



本通信の印刷・配布は

東郷堂様にご協力いただいております

次号は10月発行予定です